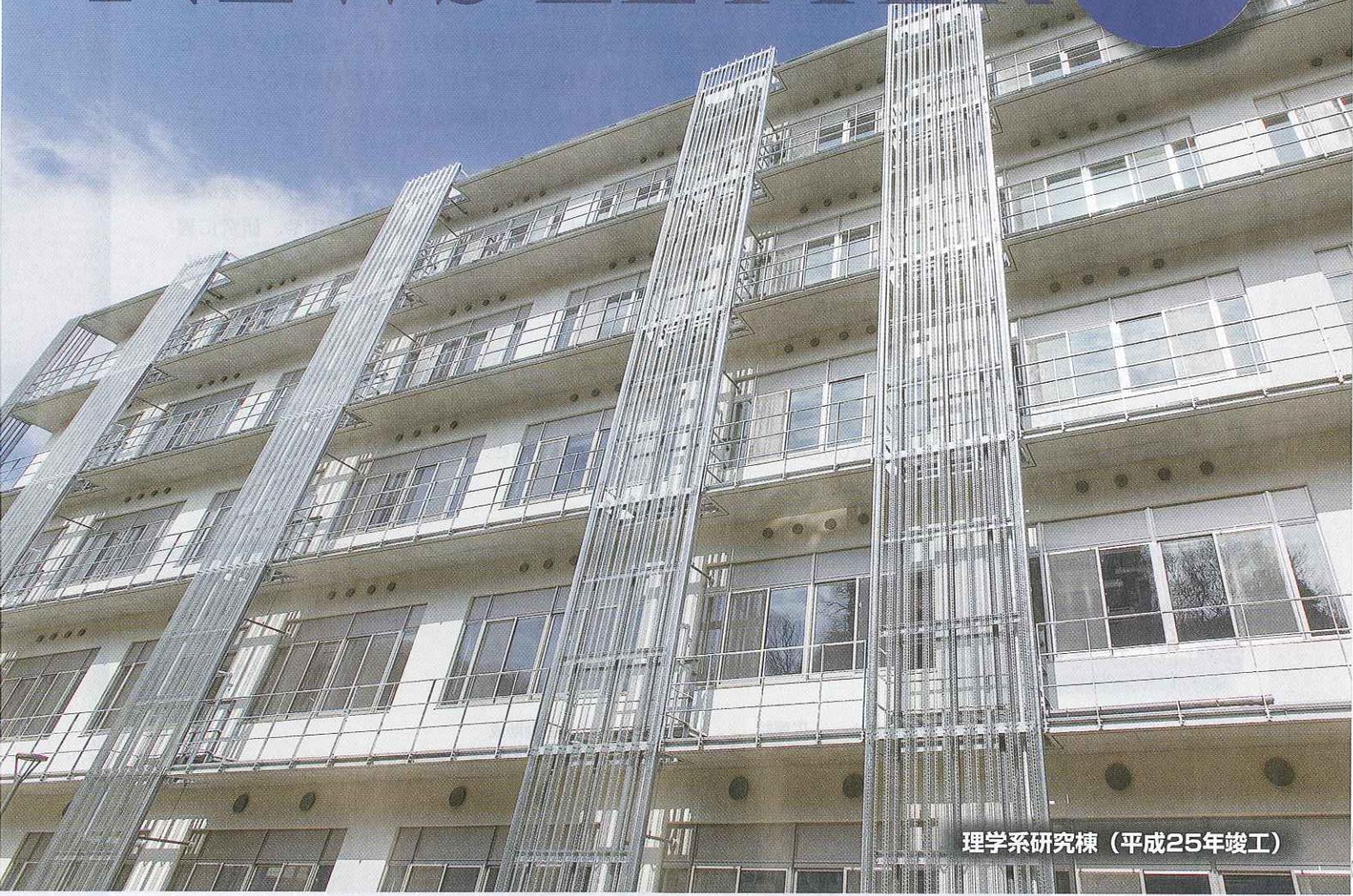


横浜市立大学後援会

NEWS LETTER 2014



理学系研究棟（平成25年竣工）

会長挨拶



横浜市立大学後援会 会長 馬場 彰

会員の皆様におかれましては日頃より、後援会活動へのご理解とご協力を賜り感謝申しあげます。後援会は学生の皆さんのがこの横浜市立大学で学習や課外活動に喜びと誇りを持って取り組み、充実したキャンパスライフを送ることができるよう支援することを目的として、教育研究活動への補助、及び福利厚生事業に対する助成、国際交流に対する支援、キャリア支援活動への助成、キャンパス内の環境改善など、様々な支援事業に取り組んでおります。

今、八景キャンパスは理学系研究棟も竣工し、学生交流センター（仮）の建築と耐震化工事が同時に進行する中で、後援会としても更なる環境改善に貢献してまいりたいと考えております。

加えて今後は、本学を卒業された皆様が、在学生への支援についても一層のご尽力をいただけますよう大学と連携して取り組んでまいります。

引き続き、理事・監事の皆様、大学関係者の皆様のご協力を得て、後援会活動の充実発展を目指してまいりますのでどうぞ宜しくお願い申しあげます。

学長挨拶

横浜市立大学 学長 鎌田 吉信



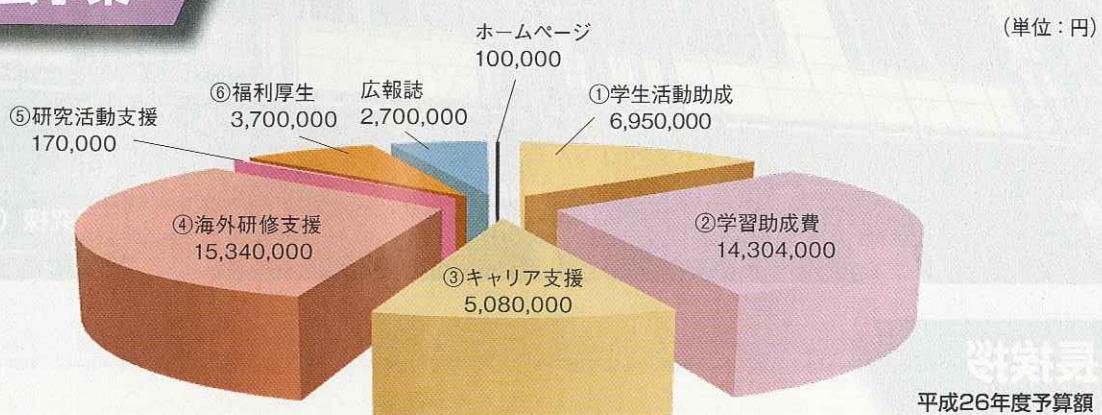
馬場会長をはじめ横浜市立大学後援会の皆様方には、平素より、本学に対して大変ご支援をいただきしておりますことに、厚くお礼申しあげます。

さて、私達の横浜市立大学は、社会の急速なグローバル化や少子高齢化の中で、厳しい大学間競争に打ち勝てる、本学ならではの存在感を打ち出すことが求められております。 こうした中、本学は世界で活躍できるグローバルな人材を育成するとともに先進的な研究と診療を行いその成果を発信し、また横浜の都市社会インフラとして、日々、地域に貢献すべく努力しております。

これまで本学は、他大学に先駆けて、大学改革を進めてまいりましたが、今後は更に「質の向上」を進めてまいります。 学部でのPractical English（英語教育）の更なる充実や、研究に裏打ちされた質の高い大学院教育、社会のニーズを先取りした病院でのより高度な医療と診療機能の充実など、教育・研究・診療の質を向上させ、特色があり、また、存在感のある横浜市立大学となることを目指したいと思っています。

そのためには、保護者の皆様や卒業生の方々をはじめとする、後援会の皆様の一層の御協力を賜ることが必要です。 後援会の皆様方には、これまで、学習活動やクラブ活動等への支援をはじめ、留学関係や就職関係の事業への支援等、幅広い御支援をいただきてまいりましたが、引き続き、学生生活の改善と大学の使命達成のため、御協力を賜りますよう お願い申し上げます。

後援会事業



後援会の事業は6つの助成事業と広報事業から成り立ちます。

柱となる6つの助成事業は

- ①部活やサークルなどの課外活動をはじめ浜大祭などの学生活動に対する助成事業
- ②ゼミ合宿などの活動や、学術情報センターへの図書寄贈など学習に係る助成事業
- ③語学検定をはじめとした各種資格取得のための受験料サポートやキャリアサポート、就職内定者との交流等、就職活動を支援するキャリアサポート支援事業
- ④海外提携校への留学や短期語学研修、授業の一環として実施されている海外フィールドワーク、海外でのインターンシップやボランティアなど、海外での活動に対して渡航費用の経済的支援を行う海外研修支援事業
- ⑤特別講義開催等の研究活動支援事業
- ⑥学長賞等の副賞をはじめ卒業祝賀会の経費補助などの福利厚生事業です

全ての助成事業は、等しく横浜市立大学の諸制度を補完し、横浜市大生の学習と生活をより実り豊かなものへとサポートします。

これらの事業は後援会ホームページ (<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/index.html>) でご案内致しております。

Campus Life

グローバリゼーションとローカライゼーション



国際総合科学部長（後援会常務理事）中條 祐介



後援会会員の皆様方には、平素よりお力添えいただき、心より感謝申し上げます。平成26年度も上半期が過ぎましたが、年末に向けて浜大祭、メディカルフェスティバル、運動部のリーグ戦や文化部の成果発表、卒業論文の提出など、学生達の活動もいよいよ盛り上がっていく時期です。皆様のご支援に支えられ、学生達が大きな成果を上げることが期待されます。

さて、本学ではグローバル人材の育成に取り組んでおり、後援会からも海外研修支援費などを通じてサポートいただいているところです。顕著な成果として、平成25年度における「海外フィールドワーク支援プログラム」の参加者が300人を超えたことがあげられます。今年度からは当該プログラムによる派遣人数ではなく、フィールドワークの質的改善を進めるとともに、ここを跳躍台に海外インターンシップ、語学研修、そして留学といったより密度の濃いプログラムへの参加を促していくと考えています。

1年生が主体の授業で学生にキャリアイメージを聞いたところ、多くの学生が途上国での活動や多国籍企業での就業意向を持っており、学生時代に国際体験を積むことを熱望している様子がうかがえました。一方、本学の学生達の視線は海外ばかりに向いているわけではありません。上記のキャリアイメージに関する問では、横浜市や故郷の活性化のために貢献したいという意向を持つ学生達も多数存在しています。

ローカル志向の学生達も世界と日本、世界と地域といった複眼的思考でバランスのとれたキラリと光るアイディアをもっています。こういう志向を持つ学生達にも、インターンシップなどの機会をこれまで以上に提供していきたいと思います。

グローバルに活躍する市大生もいれば、ローカルで力を発揮する市大生もいます。活躍する場は異なっても、自ら問題を発見し、解決する力を備えた学生達を続々と社会に送り出していきたいと思います。

e- ラーニング

英語科目「Practical English」(プラクティカル・イングリッシュ、PE)は、授業出席の他に、到達度を客観的な基準(TOEFL-ITP (トーフル))で測り、500点相当のスコア取得を最低達成水準としています。国際総合科学部では2年生から3年生への進級要件、医学部医学科では1年生から2年生への進級要件、医学部看護学科では卒業要件と、両学部で必修科目になっています。

英語教育を重視する中で、より早期にPEの単位を取得し、次のステップに進んでもらうために、平成19年度に「Practical Englishセンター」(PEセンター)を設置し、PEの授業運営や授業改善、PE単位取得後の英語科目である「Advanced Practical English」(APE) の実施、PEセンターでの英語図書貸出やオフィスアワー設置などを通じて、英語教育と学習支援を充実させて参りました。

平成26年度からは、後援会のご支援をいただき、PEを履修する1年生の時間外学習用教材としてTOEFL-ITPに特化したe-learningである「ALC Smart Learning」(アルク・スマート・ラーニング)の基盤システムを導入いたしました。(個人用のeテキストは学生自身が購入) これにより、学生はインターネット環境があれば、キャンパス内だけでなく、自宅や通学途中でも英語学習ができるようになり、英語教育の充実とシームレス化につながりました。

学術情報センター

八景キャンパス「学術情報センター（図書館）」では、学生の学習・研究にかかる様々な情報やサービスを提供しています。約64万冊の図書、1万タイトルを超える雑誌、約2万3千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は22時まで、土日も19時まで開館しており、授業後や休日にも多くの学生が学習・研究をしています。館内には、400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学習に活用できるスペースを備え、学生の様々な学習スタイルをサポートしています。

学習サポートの一環として、図書館職員による学習・研究のアドバイス（レファレンスサービス）のほか、図書館の活用法を身に付けた学生ライブラリスタッフによる相談も受け付けています。学生ライブラリスタッフは、新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組んでおり、学生の視点を取り入れ、図書館をより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

卒業生利用制度を設けているため、卒業後も図書館を利用することができます。後援会から毎年多くのご支援をいただき、学習・研究環境が一層充実しています。



平成25年度は、昨年度に引き続き毎年ご寄贈いただく教養・学習用図書のほかに有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただきました。「学生選書」による寄贈図書は、館内で3月から4月に展示が行われ、学生から好評を得ました。寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学習方法や、留学、就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『発表が新しくなる!研究者の劇的プレゼン術』や『成功する海外ボランティア21のケース』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っています。

ゼミ活動

生命医科学コース 構造生物学研究室 3年 田中 愛子

2013年度から生命医科学コースが本格的にスタートし、同年度前期末、研究室の仮配属が行われました。生命医科学コースには8の部門、19の研究室があります。それら研究室の研究内容を希望調査が行われるまでに把握し、選択することになっています。選択期間中は複数の研究室を訪問しました。その際、研究内容やその研究室の雰囲気について、この度ゼミ活動に関する補助金で購入したディスプレイを利用し、パワーポイントを表示して先生方がご説明くださいました。パンフレットやインターネットを見ただけではイメージしづらかった内容を、ディスプレイを通じて視覚で捉えることができ、非常にわかりやすく、研究室選びに悩んでいた私にとって参考になりました。

研究室訪問で興味を持った研究室に配属となりましたので、今後は研究内容をさらに深く追及していきたいです。あわせて後援会からゼミ活動に関する補助を頂き感謝しております。ありがとうございました。



国内学会発表

ナノシステム科学専攻 博士後期課程3年 兼松 佑典

滋賀県の立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて2013年3月22～25日に開催された日本化学会第93回春季年会に出席し、“溶媒効果を含めた多成分系分子軌道法の開発”というタイトルで口頭発表を行いました。

これまでに私が開発してきた新規理論化学計算プログラムを用いた理論解析結果についての報告を行い、その後の質疑応答を通して今後の研究方針を決定する上で極めて有益な知見を得ることができました。その中でプログラムの欠点についての指摘があり、今後の課題に設定しました。本学会が日本国内で開催されるものの中でも比較的大規模なものであったこともあり、普段の学会発表よりも多くの意見に触れることができたため、特に計算プログラムの利用者の立場からどのような機能や利便性が要求されるかについて考える良い機会となりました。

また、同行した同じ研究室の方の発表を拝聴して、より分かりやすい発表を行うコツを学ぶことができました。手持ちのデータの要約方法、データの見せ方、さらにはスライドの配色など細かい点についても、自身の発表に関して改善の余地がある様に思われました。その後は他の幅広い分野の方々の発表も聞いて回り、最新の技術で新たに得られた知見に触れ、刺激的で有意義な時間を過ごすことが出来ました。



Campus Life



伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学習意欲の向上を期待して設置しています。

今年度は10月2日(木)、八景キャンパスシーガルホールにおいて、平成26年度伊藤雅俊奨学生並びに成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。

また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催。学生・教員・保護者が懇親を深める良い機会となりました。



学長賞・学長奨励賞

横浜市立大学では本学の名誉を高め、学内の士気高揚に貢献する成果を上げた学生及び団体に対して、「学長賞・学長奨励賞」として表彰を行っています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献及びスポーツ・文化活動において優れた業績を上げた学生の功労を称えることで学生活動の活性化に貢献しています。後援会からは副賞をお渡ししています。

平成25年度は8月に行われたウインドサーフィンの世界大会「テクノ世界選手権」に日本代表として出場し3位入賞、11月に行われた全日本学生選手権で見事優勝を収めた国際総合科学部 国際総合学科4年(受賞当時)の五十嵐友紀さんが受賞されました。

学長奨励賞には個人の部として、第3回分子シミュレーション国際会議にて学生優秀発表賞を受賞、学術誌に論文掲載などの功績を認められた緒方勇大さん(生命ナノシステム科学研究所)、第65回日本細胞生物学会にて若手優秀発表賞を受賞、学術誌に論文掲載などの功績を認められた佐藤由典さん(医学研究科)、学生を対象にした全国規模の作曲コンテスト「学生作曲家選手権2013」の代表者としてコンテストを成功させた本田浩之さん、国家資格である公認会計士試験を在学中に全科目合格を果たした玉城航さん(ともに国際総合科学部)が受賞しました。また、団体部門では、第10回神奈川産学チャレンジプログラムにおいて、2年生チームで最優秀賞受賞及び最優秀賞内の代表プレゼンに選出された山藤竜太郎ゼミナール

「ポテトマネジメント」、同じく第10回神奈川産学チャレンジプログラムにおいて、参加した全チームが入選し、うち1チームが最優秀賞内の代表プレゼンに選出された柴田ゼミナール9期生の皆さん、第24回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会に出場し、蹴武の型団体戦で2年連続優勝を収めたテコンドー部、平成25年度関東医科歯科リーグ1部の春季団体戦で優勝を収めた医学部硬式庭球部(男子)、市内の小中学校を訪問し、医療の仕組みを子どもたちにわかりやすく教えるなど一連の地域貢献活動に尽力したYDC(Yokohama Dream Catchers)の5団体が表彰されました。



保護者説明会



在学生保護者対象説明会を各キャンパス及び地方会場（長野、広島、福岡）で開催しました。開催にあたり後援会からは、保護者の方の昼食代や地方会場の会場費用等を助成いただきました。

在学生保護者対象説明会は、保護者の方に本学の教育・研究・学生支援等の取組みや学生のキャンパスライフについてご理解いただくことを目的に、平成24年度より毎年開催しています。全体説明会では、カリキュラムの概要や経済支援、留学や就職等本学で実施している学生支援について紹介しました。加えて、教職員と相談できる個別相談会やキャンパスツアー（金沢八景キャンパスのみ）を実施するなど、バラエティに富んだプログラムをご用意し、ご好評いただきました。

卒業生送別祝賀会



平成25年度は、国際総合科学部682名、八景キャンパス大学院163名がそれぞれ卒業・修了しました。学位記授与式後の懇親会は6つの会場に分かれ、多くの指導教員も加わり、大変賑やかに開催されました。

例年、八景キャンパス体育館での卒業式典後、卒業生は、学部コース、大学院専攻に分かれて学位記の授与式を行っています。後援会の助成により、学内の会場にて懇親会を実施しております。

国際総合科学部専任教員・非常勤講師懇親会

専任教員および平成26年度非常勤講師予定者を対象とした国際総合科学部FDが平成26年3月5日（水）に実施されました。専任教員・非常勤講師がともに学部教育における現状と課題を認識し、さらなる改善に向けた取組や方策等についての検討、自由闊達な意見交換を行うことを目的に開催され、当日は38名の教職員が参加しました。

今回は、本学の保健管理センター長である河西先生に、学生の支援体制やメンタルヘルス不調をかかえた学生がクラスにいた場合の対応について、具体的な事例を用いて講演いただきました。講演後に設けられた質疑応答の時間では、授業に出席しない学生への働きかけ方に関する質問や、学生だけでなく保護者も視野に入れた支援体制について、活発な意見交換がなされました。

また、FD終了後は後援会の助成により懇親会を開催し、31名の教職員が参加され、親睦を深めました。毎年後援会よりご支援をいただくことで、日頃は顔を合わせる機会の少ない非常勤講師同士や、教員管理職を中心とした本学教員が意見交換及び情報共有を行い、また授業における課題や要望等を聴取することにより、本学の学部教育のさらなる改善に役立てることに繋げることができ、大変有意義な機会となりました。



経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計基準や学業成績を審査のうえ、経済困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。

平成26年度は、これまで行ってきた新制度の設立や審査基準の改正、制度に関する広報の強化等が実を結び、申請者数・適格認定者数がいずれも過去最多となりました。

また、授業料の減免以外にも、日本学生支援機構をはじめとする様々な奨学金の案内、手続きのサポートも行っています。

Campus Life

課外活動

●第64回浜大祭

平素より私たち浜大祭実行委員会に対する皆様のご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、私たち浜大祭実行委員会は、本学の学園祭である浜大祭をより魅力的なものにし、多くのお客様に来場していただき、楽しんでいただくにはどうすればよいかを念頭に、日々活動に励んでいます。

今年度の浜大祭のテーマは「ヨコイチ.com~with you~」です。昨年度のテーマ「YOU CAN UNITE」に続き、多くの人が一つにまとまるにはどうすればよいかを考えた結果、コミュニケーションを大切にしようという結論になりました。テーマの.comはコミュニケーションから来ており、委員全員があらゆる場面でコミュニケーションを重んじることを意識しています。

コミュニケーションとはいわゆる意思疎通ですが、私たちは直接会って話をすることが必要不可欠であると考えております。SNSやスマートフォンが普及する中で、多くの人が直接会って話すことの喜びや楽しさを忘れかけているのではないかでしょうか。私たちはたくさんの企画を準備しておりますが、企画だけでなく、直接スタッフと会話をすることでも、きっと浜大祭に来てよかったと思っていただけるよう精一杯尽力いたします。ぜひ、浜大祭へお越しください。10月31日(金)から11月2日(日)の3日間、金沢八景キャンパスでお待ちしております。



第64回浜大祭実行委員会 委員長 石塚 偵哉

●第63回関東甲信越大学体育大会



平成26年8月15日(金)～8月31日(日)に、関東甲信越地区の国公立大学から約3,500名が参加する「第63回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。今年度は新潟大学が主管校を担当し、信州大学、長岡技術科学大学を含めた三校が当番校となり大会運営を行いました。今回の大会では、女子バドミントン部が準優勝、弓道部が個人戦3位、硬式野球部が3位、女子硬式テニス部が4位になるなど市大学生208名が日頃の練習成果を遺憾なく発揮し、輝かしい成績をおさめることができました。

本大会は大会の規模が大きく、特に今回は遠方での試合が多かったため、後援会からの補助金を選手の遠征費等に充てさせていただいている。体育会運動部全体に対して毎年援助をしていただいているお陰で円滑な活動ができています。心より感謝いたします。

来年度は筑波大学が主管となり、茨城県・栃木県を会場として開催される予定です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

運動部連合会 関東甲信越大学体育大会担当 馬見塚 静流

●弓道部

私たち弓道部は、今年度第56期目となる部員を迎え、日々サークル棟奥の「心射洞道場」にて稽古しております。中学・高校からの弓道経験者はもちろん、大学から弓道を始める者も多い市大弓道部ではあります。それぞれの目標に向かって真摯に部活動に取り組んでいます。

今年度、数年ぶりに全国大会への出場を果たしましたが、こうした私たちの活動も師範の先生を始め、多くの弓道部OB・OGの皆様、大学関係者の方々、また後援会の皆様からの支えがあってこそ成り立っているのだと改めて実感しています。

そんな中、日々稽古している伝統ある弓道部専用道場の「心射洞道場」が、築40年ほどが経ち、すでに老朽化が著しい状態となっています。より良い環境の中で稽古をすること、そして私たちにとって特別な場所である道場が、より安全で、快適な場になることが、これから横浜市立大学体育会弓道部の一層の発展につながると考えております。

については、道場再建に向け、これまで以上に厚いご支援を頂きたくお願い申し上げます。後援会の皆様のご支援に応えられるよう日々、誠心誠意稽古に打ち込む所存です。今後とも弓道部を何卒よろしくお願い致します。

弓道部 主将 近藤 大蔵



●軟式野球部

私たち軟式野球部は、南関東大学軟式野球連盟I部に加盟しており、春と秋に行われるリーグ戦で上位大会(全日本・東日本大会)進出に向けて週3回の活動をしています。



私たち軟式野球部では監督やコーチがいないため、各選手で弱点や課題を見つけて出し、それを克服するために選手全員で練習メニューや改善策を考え、日々の練習に取り組んでいます。

昨年度は後援会に集球ネットと防球ネットを購入していただきました。時間と人数が制限されている中、後援会のご支援のおかげで練習効率を上げ、怪我の防止をすることができ、大変感謝しております。感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきますので、これからも軟式野球部をよろしくお願ひいたします。

軟式野球部 主将 工藤 和哉

●英語部 E.S.S.

私たち英語部 E.S.S.は、創部65年目の長い歴史を持つ部活の一つです。

部員は、1年生70名、2年生58名、3年生29名と年々人数が増え、部活の規模も大きくなってきています。その中で目標である「英語力向上」、「コミュニケーション力向上」に向けて、部員は4つのセクションに分かれて日々活動をしています。

Speechセクションは、大会に向けて自分で英語のスピーチを作成し、練習しています。さまざまな大会において入賞を目指し活動しています。Discussionセクションは、6～8人のテーブルを作り、英語を使って自由なテーマでディスカッションします。月1回ほどペースで他大学の大会へ参加します。他大学との交流も多いセクションです。Debateセクションの主な活動は、英語での討論です。テーマは今問題になっていることなら何でも。議論に終わりはありません。部員によって数ヶ月に一度ほど大会に出場しています。Guideセクションは、月2、3回程度、鎌倉で外国人に向けたボランティアガイドを行っています。また平日は週2回日本文化や鎌倉、寺院について学びます。英語力向上とともに日本の良さに気づくことができるセクションです。

大学関係者や後援会の皆様のご支援に感謝しつつ、今後も活動範囲を広げられるように頑張っていきますのでこれからも何卒よろしくお願いします。

英語部 E.S.S. 部長 川原 麻理夏



●Second Wind Jazz Orchestra

私たちSecond Wind Jazz Orchestraは、横浜市立大学唯一のビッグバンドジャズの部活として、日々、精力的に活動しています。現在の総部員数は50名で、1・2年生を中心としたジュニアバンドと、3・4年生を中心としたレギュラーバンドに分かれており、それぞれが年間を通してさまざまなライブ・コンテストに参加しています。

レギュラーバンドの活動実績としては、昨年度、学生ビッグバンド界最高峰である、山野ビッグバンドジャズコンテストで、見事に予選を通過し、全国大会に出場しました。20位以内が来年度のシード権がもらえるところ、惜しくも結果は24位でしたが、近年稀に見る快挙となりました。また、ジュニアバンドの活動実績としては、昨年度、ジュニアバンドの全国大会である、ステラジャムで優秀ソリスト賞、ベストドレッサー賞を受賞しました。

ビッグバンドは、必要な機材の維持や、ライブ毎の運搬作業などで、とても費用がかかります。後援会のみなさまからの補助金をこれらに充てさせていただいているおかげで、私たちは全力で音楽に熱中することができます。支えてくださるすべてのみなさんに感謝の気持ちを伝えられるよう精進していきますので、これからも暖かいご支援のほどよろしくお願ひいたします。また、12月21日(日)に、神奈川公会堂にて定期演奏会を行いますので、私たちの活動の成果をぜひご覧になってください。



Second Wind Jazz Orchestra 部長 北村 陽子

International

国際交流

本学では、グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、海外での様々な学びや実践の場を用意しています。今年も海外での様々な学びや実践を通して、一回りも二回りも成長した学生からの体験談をお届けします。なお、平成26年度は、フランス語夏期語学研修や韓国でのインターンシップ、また長期プログラムについては、ベネチア大学、タマサート大学との交換留学、ブリッジプログラム、ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラムが新たに始まり、いずれのプログラムについても、派遣学生第一号が旅立っていきました。

学生派遣プログラム

	25年 度	26年 度	プログラム名
語学研修 (英語)	6	10	ディーキン大学夏期語学研修 (オーストラリア)
	19	8	オックスフォード・ブルックス大学 夏期語学研修 (イギリス)
	3	(20)	カリフォルニア大学 サンディエゴ校 (UCSD) 春期アカデミックスキル研修 (アメリカ)
語学研修 (中国語)	3	(10)	上海師範大学語学研修 (中国)
語学研修 (フランス語)	H26 新設	12	ソルボンヌ言語文明講座 (フランス)
夏期講座	1	0	UCLA(H25-)夏期講座 (アメリカ)
交換留学	2	1	上海市内大学交換留学 (短期留学も含む) (中国)
	3	3	ウイーン大学交換留学 (オーストリア)
	1	2	仁川大学校交換留学 (韓国)
	H26 新設	1	タマサート大学交換留学 (タイ)
長期派遣	1	ベネチア大学交換留学 (イタリア)	
	1	ブリッジプログラム (イギリス)	
	4	1	米国セメスター留学
	1	0	英国セメスター留学

海外インターンシップ

自分の専攻や将来のキャリアと関連した就業体験を海外で行います。

平成26年参加者

国名	人数	実習先
アメリカ サンディエゴ	4	【YES提供】 サンディエゴ・インターナショナル プログラム
アメリカ フロリダ	8	【H26秋】 ディズニー・バレンシア 国際カレッジプログラム
インド プネ	1	【ソフトブリッジ提供】 インド・インターナショナル プログラム
シンガポール	1	KPMG Singapore
韓国 ソウル	1	KPMGサムジョン会計法人 ／ソウルジャパンメディア
韓国 ソウル	1	バンザイ・インターナショナル
韓国 ソウル	1	ベストフレンド 韓国語文化交流センター
韓国 ソウル	1	韓日社会文化フォーラム
中国 上海	1	NBC(上海)汽車科技有限公司
中国 上海	1	旭化成(中国)投資有限公司

海外フィールドワーク支援プログラム

所属	参加 学生数 (予定)	主な渡航先
共通教養	11	アメリカ(アラスカ)
	10	オーストリア(ウィーン)
社会関係論	15	メキシコ (メリダ、ヴァヤジャドリー、メキシコシティ)
地域政策	15	スウェーデン(ウプサラ)
	7	ベトナム(ホーチミン)
グローバル協力	10	南アフリカ (ヨハネスブルグ、リヨン、ブランタバ)
	12	アメリカ (ニューヨーク)
	18	タイ(バンコク)
経営学	21	アメリカ (ニューヨーク)
	17	マレーシア (クアラルンプール)
会計学	20	タイ(バンコク)、ラオス (ルアンプラバーン)
	16	台湾(高雄、台北)
経済学	24	韓国 (ソウル、水源)
	15	タイ (バンコク)
医学科	2	ブラジル (南リオグランデ州)
医学科/看護学科	5	ブラジル (南リオグランデ州)
看護学科	7	ザンビア (ルサカ)
物質システム科学	16	台湾(台北)
	22	台湾(台北)
生命環境 システム科学	9	韓国 (ソウル)
	8	メキシコ (テスココ、オブregon)
	15	アメリカ(サンディエゴ)

国際ボランティア

長期休業期間に、世界約30カ国、約800にわたるプログラムから自分の希望するプログラムを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムは、TOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会(CIEE)が提供しています。

H26(夏) 派遣国実績

アイスランド、インドネシア、オーストラリア、カナダ、チェコ、ドイツ、トルコ、フランス、ベトナム

アカデミックコンソーシアム参加支援プログラム

所属	参加学生数 (予定)	主な渡航先
アカデミックコンソーシアム (環境ユニット)	15	ベトナム(ホーチミン)
アカデミックコンソーシアム (まちづくりユニット)	15	ベトナム(ホーチミン)

International

海外派遣プログラム

英国セメスター留学（イーストアングリア大学）体験記 国際文化創造コース 4年 濱谷 真子

UEAはイギリスのロンドンから北東に位置するノリッジにあります。私は国際開発学を専攻し、開発学を政治、教育、メディアなど様々な視点から学びました。また、EUに関する授業も履修し、その繋がりでイースター休暇にEUを訪問しました。非常にチャレンジングな環境で勉強でき、そこで出会えた多くの仲間からも刺激を受け、多くの意見に触れることで視野を広げ



European Parliament にて

ることができました。一方で大学寮では、多国籍の学生9人とキッチンシェアの下で生活し、異なる文化や価値観に触れる中で、それらを認め尊重することの大切さを改めて実感しました。9ヶ月間の留学生活を通じて、快適な環境で勉強でき、そこでかけがえのない仲間ができたことは、私にとって大きな財産です。これまで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘ることなく、留学で学んだことを生かして、今後も新たな目標に向かって邁進していきたいと思います。ありがとうございました。

ソルボンヌ言語文明講座（フランス語語学研修）体験記

ヨコハマ起業戦略コース 4年 金 恵珍

8月6日から8月30日までの約3週間のプログラムに参加しました。フランスの首都パリの中でも芸術や文学の町で多く知られているソルボンヌで勉強しました。芸術家らが多く訪ねていたといわれているカフェが並んでおり、学生の私たちにとっては最も良い環境でした。計12人の横浜市立大学の学生が各自のレベルに沿ったクラスに配属され、週に5回1日5時間の授業を受けました。私のクラスでは全てフランス語での文法や会話の授業、また発音の授業が行われました。クラスメートはEUの様々な国から来た学生が多く、皆フランス語の会話力が高く、とても刺激になりました。このプログラムで得られたのは何より世界のいろいろな国の友達ができたことです。最初は話が通じない状態でどのように仲良くなればよいのか戸惑いましたが、やはり自分から心を開いて相手に接していくことはどの国に行っても共通することであることを感じました。このプログラムを設置してくださいました横浜市立大学関係者の方々、支援してくださいました後援会の方々に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



海外フィールドワーク支援プログラム

韓国フィールドワーク体験記

生命ナノシステム科学研究所 生命環境システム科学専攻
博士前期課程1年 梶田 夕貴



韓国へのフィールドワークは、①海外で英語を用いた研究発表や質疑応答の実践訓練および学生との交流、②韓国にある大手食品会社研究所の見学、③王宮跡や文化村、博物館訪問を通じた韓国の歴史や民族性を学修することを目的に参加しました。

高麗大学での英語による発表では、英語力の不足により、内容を伝えるための努力が思った以上に不足していたことがわかりました。複雑な話は英語では伝わらないからと諦めてしまうのではなく、どのように話したら伝わるかを考えるべきだと感じました。英語力の向上とともに、今後の課題としたいです。また、韓国の学生は、日本語を話せる人や、日本に旅行に行ったことがある人など、日本に関心がある人が多いと思いました。さらに、企業の研究所を実際に見学できたことは、とても貴重な経験となるとともに、研究者に女性が多いことに驚きました。

現地では、学生や先生方など、多くの人から日本語であいさつをしてもらえて非常に嬉しく思いました。相手の国の言葉のあいさつをするだけで、壁が一つ取り除かれると感じました。もし外国から日本にお客様が見えたら、こちらもこのような配慮をすべきなのだと感じました。

通常の旅行では絶対に得られない経験ができたことに感謝し、これからも海外フィールドワークが続くことを望みます。

海外インターンシップ

実習先：アメリカ

3年生になり、大学生活の半分が終わった時、私の今までの大学生活を振り返ってみると、何かに挑戦することが少なかつたことに気付き、今までと違うことに挑戦したいという想いから、アメリカでの海外インターンシップに参加しました。実習では英語に苦労しました。そこで、慣れるまで時間がかかりました。しかし、しっかり聞きとれなかった時は恥ずかしがらず、積極的に聞き直すように心がけていました。その後は英語が聞き取れるようになり、自分でも言いたいことが言えるようになっていきました。

実習を通して特に大切に感じたことが二つあります。一つは、自分から動くこと。もう一つは、相手のことを考えることです。この2つを実行することで、仕事の仕方も自ずと変わってきて、1ヶ月の実習はとても充実したものとなりました。



国際ボランティア

派遣国：ドイツ

国際総合科学部 1年 菊島 淳平

私が国際ボランティアに参加した目的は大きく分けて2つあります。一つ目は、ドイツの文化や環境への取り組みに興味があったこと。もう一つは海外に出て、現地の人と英語でコミュニケーションを取って世界に友達を作りたいと思ったため



です。主な活動内容はマツやブナなどの若木の植樹で、他にも野生動物から若木を保護するためのクリップを付ける作業や山の中で作業がしやすいようにスコップで土を削り、道を作る作業もしました。最も苦労したことは英語でのコミュニケーションでした。最初はあまり聞き取ることができず、不安でした。また、聞き取れたとしても自分の意見を英語で表現することが難しく、大変でした。しかし、ワークや生活、ゲームなどを通して徐々に慣れていき、最後はジョークを言えるようになりました。このプログラムでたくさんの貴重な経験ができたので、また機会があれば参加したいと思っています。

アカデミックコンソーシアム

2014年9月、ベトナム国家大学にて第5回アカデミックコンソーシアム※国際シンポジウム・総会が開催され、「環境」「まちづくり」「公衆衛生」をテーマに、持続可能な都市について議論を深めました。学生37名がベトナム大学生との国際学生ワークショップやフィールドワークに参加し、その成果をポスターセッションとして国際シンポジウムの場で発表しました。

これらの活動を通じて、海外大学の学生と一つの目的に向かって調査し、意見をぶつけ合い議論する等の時間を共有することは、深い交流とグローバルな体験を得る貴重な機会であり、学生にとって意義深いものになりました。学生による実践的なワークショップ・フィールドワークが、アジアの大学間ネットワークを発展させる一助となっています。

※アカデミックコンソーシアムは、アジアを中心としたネットワークであり、各都市、都市にある大学、国際機関などと協働しながら、都市が抱える問題の解決に取組んでいます。



Career Support

キャリア支援

「豊かな教養と専門能力を兼ね備え、国内のみならず世界の第一線で活躍できる人材を育成する」ことを目標とし、学生のキャリア・就職支援に積極的に取り組んでいます。

学生は、キャリア・就職に関する相談はもちろん、企業情報、OB・OG情報、就職関連書籍など役立つ情報を得ることができます。また、就職ガイダンス、公務員講座や合同企業セミナーなど就職活動支援に関する講座やさまざまなイベントに参加することができます。さらにキャリアアップを図るための資格取得支援制度や、単位認定科目である国内・海外インターンシッププログラム、1年次から参加できる国際ボランティアプログラムなど、グローバルな視野を身につけるための幅広いキャリア支援を受けることができます。平成24年度からは早期に正しい勤労観・職業観を身につけ、社会人基礎力を養うためのキャリア支援講座を1、2年次生対象に開講し、またUターン・Iターンを支援するため、全国10大学と「就職支援パートナーシップ制度」を締結するなど、学生は入学直後から卒業まで体系的なキャリア支援を受けることができます。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・就職相談	専任のキャリア・コンサルタントを配置し、キャリア形成に関する相談から、履歴書やエントリーシートの書き方、模擬面接まで相談に応じています。
就職支援講座・イベント	合同企業セミナーや就職ガイダンス、公務員講座など各種就職支援講座を随時開催しています。
低学年次対象 キャリア支援講座	学部の1、2年生を対象に、早期に正しい勤労観・職業観を身につけ、社会人基礎力を養うためのキャリア支援講座を実施しています。
インターンシップ	民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験する場を提供しています。学生への海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいている。※2年次以上対象 海外インターンシップについては、P9参照
国際ボランティア	世界30カ国800にわたるプロジェクトから、希望するプログラムを選び、夏休み及び春休み期間中に2~3週間にわたり参加するボランティアプログラムを提供しています。学年問わず参加可能。学生の海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいている。国際ボランティアについてはP9参照
キャリアソポーター制度	キャリアソポーターとは、在学生の就職支援を行うOB・OGです。学生が直接連絡を取り相談ができ、現在約1,000名以上の方に登録いただいている。毎年「キャリアソポーターと学生の集い」を開催し、在学生の就職支援を行っています。開催費用を後援会より助成いただいている。
キャリアメンター制度	就職が内定した学部4年生/修士2年生が自己の経験をもとに、学部3年生/修士1年生に対して、相談・指導する制度です。
資格取得支援制度	TOEFL、TOEIC、各種語学検定、簿記等をはじめとした資格を取得した学生に、受講料の半額を助成。さらに一定レベルを超えた学生には報奨金を助成する制度です。後援会より助成いただいている。
書籍・DSソフトの貸出し	キャリア、業界、職種研究等キャリアに関する書籍やビジネス誌、資格対策のDSソフト等を学生に貸出しています。書籍やソフト購入の一部は、後援会より助成いただいている。
キャリア・ネットポータル	本学学生専用のWEBサイトです。イベント予約やOB・OG情報、求人票の閲覧、インターンシップ情報等オンライン上でキャリア支援を行います。
ディズニー・バレンシア 国際カレッジプログラム	 米国フロリダ州オーランド市にあるバレンシアカレッジ及びウォルト・ディズニー・カンパニーによる、ビジネス関連科目を履修しながらウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートでインターンシップ実習を行う約5か月の留学プログラム。世界中から集まる学生と共に学び、暮らし、働くことを通じ、グローバル人材に必要とされる知識、スキル及びマインドを身に付けます。
就職支援 パートナーシップ制度	本学学生が下記全国10大学で求人票の閲覧や就職相談が受けられる制度です。 国際教養大学、福井県立大学、信州大学、都留文科大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、北九州市立大学



入学から卒業までの流れ

支援内容	1年	2年	3年	4年
キャリア	新入生オリエンテーション キャリアデザイン実習 低学年次対象キャリア支援講座 キャリア面談	キャリア・ネットポータルの活用 DS・書籍貸出し	就職・進路相談	進路報告
就職			就職ガイダンス 合同企業セミナー キャリアメンター制度 キャリアサポートーとの集い OB・OG訪問(キャリアサポートー制度)	キャリアメンター登録
資格取得		後援会による資格取得助成制度	公務員講座	
体験活動		国内・海外インターンシップ 国際ボランティア ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム		

卒業生進路

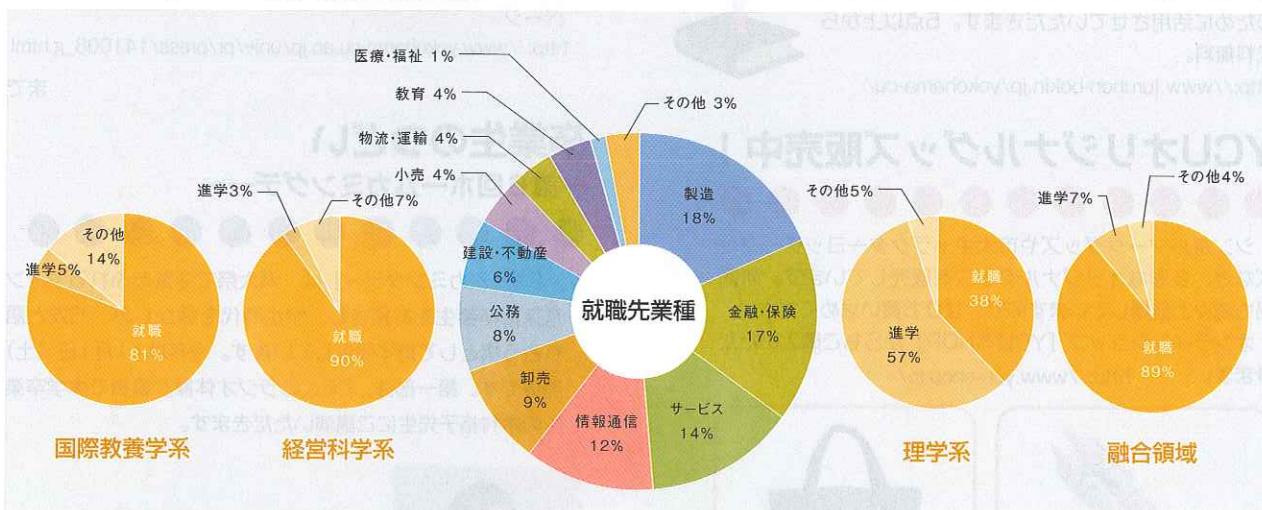
就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得など、卒業後の進路は様々です。経営科学系、国際教養学系、融合領域など文系の学生は80%以上が就職を希望し、理学系では約60%の学生が進学しています。平成25年度卒業国際総合科学部全体の就職率は98.5%となり、学部設置以来最高の数値となりました。横浜市役所や横浜銀行など横浜市内で働くことを希望する学生も多く、卒業生は各企業から高い評価をいただいております。

◆国際総合科学部 卒業生進路状況(平成26年5月1日現在)

コース名	人間科学コース			国際文化創造コース			政策経営コース			国際経営コース			基盤科学コース			環境生命コース			ヨコハマ起業教路コース			
就職率	97.2%			95.1%			100.0%			99.5%			100.0%			96.6%			100.0%			
進路	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	合計			
男	20	0	6	29	2	3	53	0	4	111	0	9	6	19	2	12	15	2	19	4	1	317
女	50	3	8	49	4	9	21	4	0	101	4	9	9	13	1	16	17	1	45	1	2	367
男女計	70	3	14	78	6	12	74	4	4	212	4	18	15	32	3	28	32	3	64	5	3	684

※その他：留学、資格取得など

※就職率：就職者÷就職希望者数



主な就職先

横浜市役所、横浜銀行、日本銀行、日本テレビ放送網、日揮、あづさ監査法人、全日本空輸、日本航空、三井物産、豊田通商、みずほフィナンシャルグループ 他

主な進学先

横浜市立大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、京都大学大学院、早稲田大学大学院、ロンドン大学大学院 他

YCU 近況報告

…このページでは大学の近況をご報告します。

理学系研究棟が竣工しました！



25年度に竣工した理学系研究棟

金沢八景キャンパスでは、未来に向けたキャンパス環境づくりを計画的に行ってています。25年度末に理学系研究棟が竣工するとともに、26年度は講義室、アドミッションズセンターとして使用されていた付属校舎が老朽化のため取り壊され、新しく（仮称）学生交流センターの建築工事が始まっています。

また、地震に対してより安全なキャンパスにするために、本校舎、文科系研究棟の耐震補強工事も行います。

今後もしばらくの間、学内で工事が続きますが、安全面で万全を期すとともに、学習・研究面への影響を極力少なくするよう努めますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

学術情報センターのいま～ニーズに合わせて変化していきます～

グループ学習を取り入れた授業の増加等により、図書館における学生の学修スタイルが変化しています。学術情報センターでは、学修に対する学生や教員からの様々なニーズに応えるために、グループ学習スペース（室）を拡大し、個人学習スペースとのすみ分けを行うといった施設整備等に向けて取り組んでいます。

また、学術情報センターに、新たに「会社史・団体史コーナー」を開設しました。地方史と並んで本学図書館の特色的なコレクション群となっている明治以降の会社史、団体史、官庁関係史や労働運動、組合史資料など約2万冊を利用しやすく整理しています。

公式ソーシャルメディアの紹介

大学公式のFacebook、Twitter、YouTubeより、最新ニュースやイベント情報を発信しています。

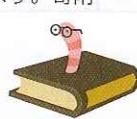


http://www.yokohama-cu.ac.jp/policy/socicalmedia_list.html

「YCU古本募金」始めました！

読み終わった本や不要になったCD、DVDをご提供ください。買取額が全額、横浜市立大学に寄附されます。寄附金は教育・研究環境の整備など、学生生活の充実のために活用させていただきます。5点以上から送料無料。

<http://www.furuhon-bokin.jp/yokohama-cu/>



YCUオリジナルグッズ販売中！

シンボルマークグッズや市大キャラクターヨッヂーグッズなど、多彩なオリジナルグッズを販売しています。新商品も続々と登場していますので、ぜひお買い求めください。

オンラインショップ「YCU-SHOP」からもご購入いただけます。
<http://www.ycu-shop.jp/>



YCUのロゴをデザインした
ボールペン&シャーペンセット。
太軸タイプだから書き続
けても疲れません。



ミニトートバッグ
ちょっとしたお買いや
お出かけ時のサブバッグ
に便利なサイズです。

市民講座を開催します！

学術情報センターでは、広く市民の皆さまを対象とした『市民講座』を毎年開催しています。今年は、鉄道関係の会社史・団体史をとりあげ、「横浜と鉄道」と題しまして11月29日（土）に開催します。

詳しくは電話045-787-2073（2076）またはホームページ

http://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/pr/press/141008_g.html

まで

卒業生のつどい

～第6回ホームカミングデー～

「ホームカミングデー」は、浜大祭で活気あふれるキャンパスに卒業生をお招きし、学生時代を懐かしみ、旧友と語り合う場として毎年開催しています。今年は11月1日（土）開催です。第一部は、「大人のラジオ体操」著者で本学卒業生の中村格子先生にご講演いただきます。



【記念講演】

講演者：中村 格子氏
(スポーツドクター、
よこはま健康づくり広報大使)

テーマ：
「美しく健やかに年齢を重ねるコツ」

7月5日 後援会総会が開催されました。

平成26年度の総会は7月5日（土）八景キャンパスシーガルセンターホールで開催されました。新役員には理事として、新入生保護者より、柳沼さんと中山さんの2名が選出されました。また、窪田学長が顧問に就任されました。総会終了後、例年通り生協食堂において開催された懇親会は、高岡幸彦元会長（92歳）のお元気な乾杯から始まりました。



平成27年度後援会総会は、6月後半（第3週または第4週）の土曜日を予定致しております。

開催期日が決まりましたら、ホームページにてお知らせいたします。なお、お葉書でのご連絡は致しませんので、お手数ですがホームページをご確認くださいますようお願ひいたします。

(<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/index.html>)

平成25年度決算

一般会計

科目	25年度予算額	25年度決算額	増減
【収入の部】			
会 費 収 入 (1)	43,310,000	43,310,000	0
会 費 収 入 (2)	2,500,000	2,525,760	25,760
雑 収 入	50,000	3,215	△ 46,785
当 期 収 入 合 計(A)	45,860,000	45,838,975	△ 21,025
繰 越 収 支 差 額	8,557,061	8,557,061	0
収 入 合 計 (B)	54,417,061	54,396,036	△ 21,025
【支出の部】			
事業費	49,830,000	44,876,291	△ 4,953,709
(助成・支援事業)			
学 生 活 動 助 成 費	6,710,000	6,489,234	△ 220,766
学 習 助 成 費	14,240,000	13,539,992	△ 700,008
キ ャ リ ア 支 援 費	2,775,000	2,741,812	△ 33,188
海 外 研 修 支 援 費	19,055,000	15,663,290	△ 3,391,710
研 究 活 動 支 援 費	200,000	133,800	△ 66,200
福 利 厚 生 費	3,850,000	3,654,877	△ 195,123
(広報事業)			
広 報 誌 発 行	2,800,000	2,452,946	△ 347,054
HPメンテナンス	200,000	200,340	340
運営費	3,000,000	2,689,589	△ 310,411
会 議 費	500,000	305,936	△ 194,064
通 信 費	100,000	70,340	△ 29,660
事 務 局 費	2,400,000	2,313,313	△ 86,687
当 期 支 出 合 計(C)	52,830,000	47,565,880	△ 5,264,120
当 期 収 支 差 額(A)-(C)	△ 6,970,000	△ 1,726,905	5,243,095
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,587,061	6,830,156	5,243,095

平成26年度予算

一般会計

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで (単位:円)

科目	26年度予算額	25年度実績
【収入の部】		
会 費 収 入	43,240,000	43,310,000
会 費 収 入 等	2,000,000	2,525,760
雑 収 入	3,000	3,215
当 期 収 入 合 計(A)	45,243,000	45,838,975
繰 越 収 支 差 額	6,830,156	8,557,061
収 入 合 計 (B)	52,073,156	54,396,036
【支出の部】		
事業費	48,344,000	44,876,291
(助成・支援事業)		
学 生 活 動 助 成 費	6,950,000	6,489,234
学 習 助 成 費	14,304,000	13,539,992
キ ャ リ ア 支 援 費	5,080,000	2,741,812
海 外 研 修 支 援 費	15,340,000	15,663,290
研 究 活 動 支 援 費	170,000	133,800
福 利 厚 生 費	3,700,000	3,654,877
(広報事業)		
広 報 誌 発 行	2,700,000	2,452,946
ホームページ(メンテナンス等)	100,000	200,340
運営費	3,000,000	2,689,589
会 議 費	400,000	305,936
通 信 費	100,000	70,340
事 務 局 費	2,500,000	2,313,313
当 期 支 出 合 計(C)	51,344,000	47,565,880
当 期 収 支 差 額(A)-(C)	△ 6,101,000	△ 1,726,905
次 期 繰 越 収 支 差 額(B)-(C)	729,156	6,830,156

教育設備資金特別会計

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

科目	25年度予算額	25年度決算額	増減
【収入の部】			
受 取 利 息 収 入	5,000	7,410	2,410
当 期 収 入 合 計(A)	5,000	7,410	2,410
繰 越 収 支 差 額	37,031,227	37,031,227	0
収 入 合 計 (B)	37,036,227	37,038,637	2,410
【支出の部】			
教 育 環 境 整 備	6,000,000	4,432,470	△ 1,567,530
当 期 支 出 合 計(C)	6,000,000	4,432,470	△ 1,567,530
当 期 収 支 差 額(A)-(C)	△ 5,995,000	△ 4,425,060	1,569,940
次 期 繰 越 収 支 差 額(B)-(C)	31,036,227	32,606,167	1,569,940

教育設備資金特別会計

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで (単位:円)

科目	26年度予算額	25年度実績
【収入の部】		
受 取 利 息 収 入	5,000	7,410
当 期 収 入 合 計(A)	5,000	7,410
繰 越 収 支 差 額	32,606,167	37,031,227
収 入 合 計 (B)	32,611,167	37,038,637
【支出の部】		
教 育 環 境 整 備	1,000,000	4,432,470
当 期 支 出 合 計 (C)	1,000,000	4,432,470
当 期 収 支 差 額(A)-(C)	△ 995,000	△ 4,425,060
次 期 繰 越 収 支 差 額(B)-(C)	31,611,167	32,606,167

監査報告書

公立大学法人横浜市立大学後援会会則、第8条（7）の規程により、平成25年度事業報告並びに決算書類を監査した。
その結果は、事業報告は妥当であり、その会計処理は財産及び収支の状況を正しく表示していると認める。

平成26年6月6日 監事 市川 靖・渥美朋子

7月5日の総会で後援会会則が改正されました。

主な改正点は、第17条の会費に関する規定です。

2号及び3号会員(卒業生等)については会費を廃止し広く後援会を支援していただくよう寄付金を納付していただけるように改めました。その趣旨は、会費納入の有無にかかわらず卒業生等を会員と位置付けることで、より多くの卒業生等との繋がりを築き、本会から定期的な情報提供を行うとともに、本会の事業への支援、賛助をいただける環境を整えるというものです。

公立大学法人横浜市立大学後援会会則

(名称)

第1条 本会は横浜市立大学後援会と称する。

(目的及び事業)

第2条 本会は横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員及び役員等)

第4条 本会は次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生(医学部2年次以上及び医学研究科を除く)の保護者または学生本人(以下「1号会員」という)
- (2) 横浜市立大学の卒業生及び教職員並びに退職者で本会の事業を支援する者(以下「2号会員」という)
- (3) 本会の事業を賛助する者(以下「3号会員」という)

第5条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理事 30名以内
- (6) 幹事 5名以内
- (7) 監事 2名以内
- (8) 顧問 若干名

(役員の選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、幹事、監事は会員の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は前任者の残任期間とする。

第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 幹事は、本会の一般業務を処理する。
- (7) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は大学との連絡を密にするため顧問を若干名置くことができる。

2.顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

3.顧問は、会長の諮問に応じるとともに会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

第10条 本会の事務を処理するために書記等の職員を置く。

2.職員は、理事会の議を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする。

2.総会および理事会の議長は、会長をもって充てる。

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員の選任及びその他本会の運営に関し必要と認められる事項について審議する。

2.会長は必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3.総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

第13条 理事会は、第5条に掲げる顧問を除く役員をもって構成する。

2.会長は必要と認めたとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画(案)、予算(案)、決算(案)及び会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2.理事会の議事は出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第17条 本会の会員の会費等は、次のとおりとする。なお、会費の納入は入学時とし、既納の会費は返還しない。

(1) 学部においては学生一人につき、50,000円(但し医学部1年次生については15,000円)

(2) 大学院博士前期課程および博士後期課程においては院生一人につき30,000円(但し博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあっては20,000円とする)

(3) 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、隨時、本会の事業を支援、賛助するための寄付に努めるものとする。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会で行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

(施行期日)

1. 本会則は平成19年6月2日から施行する。

(施行期日)

1. 本会則は、平成22年6月26日から施行する。

(施行期日)

1. 本会則は、平成26年7月5日から施行する。

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内

TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp